

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告

学校名 厚木市立飯山小 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】
---------------	--

校長名 三橋 弘明

学校教育目標	学校経営の方針
心豊かに たくましく 夢をはぐくみ 未来を拓く 主体性のある飯山の子	・地域や社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの推進 ・豊かな学力の育成に向けた主体的で対話的な深い学びのある不断の授業改善と工夫 ・児童の居場所のある安心・安全で充実した教育環境と組織づくり ・個に応じたインクルーシブ教育及び個別最適な指導と支援体制の推進 ・開かれた学校づくりによる保護者や地域、関係機関等との連携と協働

今年度の重点目標

◇様々な体験活動を生かした教育活動及び学校行事を通じた学びの充実
◇地域人材や教育資源、地域の素材を活用した「ふるさと飯山」への教育の推進
(1)【豊かな学力の伸長】(2)【調和のとれた心の育成】(3)【健やかな体と安全、地域との協働】

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
【豊かな学力の伸長】 ○豊かで確かな学びの基礎・基本や個の視点を大切にす る授業の構築 ○子どもの主体的な 学びに応える多様で 質の高い学習づくり	1・2	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行った。	○児童の知的好奇心を大切に、わかる・できる・楽しい授業づくりを意識した授業を構築することができた。 ○校内研究では、授業で身に付けなければならない力を焦点化した「ルーブリック」を用いて学習の工夫を展開することができた。児童は、見通しをもって学習に取り組むことができた。また、教職員は指導と評価の一体化を図ることができた。 ●単元や学年をまたいだ系統的な指導において、全体での方向性の確認や重点の明確化など、さらなる研究の推進が必要と感じている。 ●児童対象のアンケートの中で『学校の勉強で「できた」「楽しい」と思うことはありますか』という設問において、少数ではあったが「思わない」「あまり思わない」との意見回答が見られた。	・児童の知的好奇心を大切に、分かる・できる・楽しい授業づくりを推進していくとともに、学び続けられる授業デザインを意識し、実践していく。 ・校内研究において、今年度の成果を生かしながら、さらなる「ルーブリック」の活用に努める。 ・GIGAスクール端末のさらなる活用を図る。
	1	・国語科、算数科における知識・技能の定着を図った。	○「類語集め」「言葉の宝箱」等の活動を推進し、「語彙を増やす活動」「タイピングソフトプレイグラム」等に取り組んだ。タイピングについては、取り組んだことがその児童の自信につながるように、努力が見られた児童については、表彰をする等してきた。	・学校で「つきたい力」を共通理解し、年間を通して取り組む活動を設定する。 ・漢字・計算ドリルの指導方法の統一などを図る。 ・「飯山タイム」「飯山チャレンジ」をさらに充実させていく。
	1・2	・体力づくりの充実(体力チャレンジ旬間、外遊びなど)を図った。	○冬の寒い時期を中心に、全校による年2回の体力チャレンジ旬間(持久走及び大縄)を実施し、意欲的に取り組む児童の様子から、健康の増進と体力の向上につながる意欲づけとなった。また、保護者の参観による「記録会」は、児童の励みや頑張りの機会となった。	・全校で重点的に行う取組として、時期を決めてできることを継続していく。
	1・2	・家庭と連携した自主学習を推進した。	○GIGAスクール端末を利用したデジタルコンテンツ教材を、全学年で日常的に利用してきた。 ●GIGAスクール端末の持ち帰りの約束やきまり等を確認しながら、本格的な実施計画を進め、家庭における利活用の推進を図っていく。	・GIGAスクール端末の持ち帰りを推進し、宿題や自主学習の活用を行っていく。 ・身体の健やかな発達への影響を考慮して、携行品の重さや量について配慮をしていく。 ・保護者へデジタルコンテンツ活用の啓発文書を配付するなど、理解と協力を得ながら連携を図っていく。

【調和のとれた心の育成】 ○友達のよさを認め、児童が絆をつくり、居場所がある学級経営、人間関係づくりの推進 ○自尊感情を高める指導と支援	2・3	・よりよい学級をつくらうとする学級活動の充実を図った。	○各行事に向けての準備に、児童らが意欲的に取り組む姿があり、振り返りも充実したものになった。特に、「飯山フェスティバル」では、学級の団結力が強まるとともに、それぞれの創意工夫がみられ、課題解決力の育成にもつながった。	・児童主体の活動を推し進める。 ・活動の中で出てきた課題について、自分たちの力で解決できるような時間を保障したり、解決方法のモデル(思考ツールやICT機器の活用)の提示をしたりしながら、課題解決能力の育成に努める。 ・引き続き、PDCAサイクルによる活動を進めていく。
	2・3	・児童の創意工夫を生かした児童会活動や縦割り活動の充実を図った。	○年間を通して、代表委員会での行事の振り返りが充実したものになった。それぞれの学年を称賛する意見が多く出ていた。 ○昨年度の評価で児童からあがった、縦割り活動の充実について取り組んだ。高学年は、自身の役割を意識しながら縦割り活動を計画・運営することができていた。 ●運営だよりで話合いの意見を発信しているが、より効果的な発信の仕方を考える必要がある。	・「飯山小 未来へつなごうプロジェクト」を児童主体で展開していく。 ・次年度は、縦割りの合同遠足を計画している。児童による自治力の向上とリーダーシップの育成につなげていく。 ・児童会活動の充実については、校内掲示物や放送等を活用するなど、児童の意見を吸い上げ、広報のあり方
	2・3	・お互いを認め合い、高め合える人間関係の育成を図った。	●児童の情報交換を毎月行うことができたが、この中では、課題のみの共有となることも多く、一人一人のよさや活躍ぶりを共有することが少なかった。	・教職員が児童らのよいところを見つけ、共有できるようにしていく。
	1・2・3	・キャリア週間を展開し、自身の役割や仕事をやり遂げる大切さについて学ぶ機会を構築した。	○多くの方に協力を願い、キャリア週間を実施した。得意なことや好きなことを生かして、将来なりたい自分の姿を思い描いたり、目標をもったりすることを通して、できることをやり尽くそうとする態度を育てることができた。 ●2学期の終わりの実施だったため、係活動やお手伝い等、その場で自分ができることを見つけて進んで実践しようとしたり、目標をもって努力しようとしたりする態度の育成につなげることができなかった。	・児童の自己肯定感が高まるように、今後も継続していく。 ・次年度は、9月に実施予定であるため、係活動等で自身の役割に誇りをもち、やり遂げる力の育成につなげていきたい。
【豊かな心の育成】 児童指導・支援体制の充実	2	・全教職員による児童理解・チーム支援を推進した。	○各担任が児童指導・支援の出来事をまとめ、記録をもとに情報の共有を行うことができた。 ○記録を取ってこまめな情報共有を図ることで、チームで児童を支援していく体制づくりが進んだ。 ○インクルーシブ教育推進の一環として、「みんなの教室」を設置することができた。相談体制として、保護者からの肯定的な意見も多かった。	・今後も記録の集約、情報の共有を継続していく。 ・全職員が力を合わせ、「みんなの教室」のさらなる充実を図っていく。
	2	・児童の成長につながる児童指導を進め、問題行動の「未然防止」「早期発見」「適正な対応」を図った。	○毎学期の児童アンケートの活用や2学期の児童面談の実施により、いじめや児童の困っていること等に早期に対応できた。	・教職員間で連携を取りながら、予防的な児童指導を、引き続き進めていく。 ・外部機関と連携を図ったり、校内研修やケース会議を行ったりしながら、早期解決に努める。
	2・3	・交通安全「地域とのふれあいを大切にした交通安全教育の充実」を図った。	○地域企業の協力のもと、交通安全教室を実施した。PTA校外生活指導委員や見守りボランティアの方々にも参加していただき、登下校の安全について、学校全体で取り組むことができた。 ○児童の登下校の見守りについて、PTAや地域の方々の協力により、安心・安全に登下校することができている。見守りの中で、登校班で困っていることや気になっていることなども情報を共有し、指導にあたることができた。	・防犯ブザーや自転車用ヘルメットの着用について、学期ごとに実施月を決めて、状況を確認した上で、各学年に応じた指導を実施していく。

【安全教育の推進】 自他の安全を守ろうとする判断力と行動力を育む安全教育の推進	1・2・3	・災害時の備えに向けて、児童及び教職員の安心・安全の確認における「地震に備えた防災訓練の充実」を図った。	○火災、地震に対しての避難経路の確認やあらゆる場面を想定した避難を考えて訓練することができた。児童は、事前、事後指導を受けて、訓練の振り返りをする中で、自分の身の守り方について考えを深めた。 ●西門、東門の開錠や大階段の状況確認など、教職員数も少ない中ではあるが、全職員で臨機応変に対応にあたる必要がある。	・北棟からの避難経路を確保するために、外から出入りできるように施設の修繕を依頼している。今後とも、どこからでも安全に避難ができるように、また、避難所としての機能を果たせるように、施設の管理に努めていく。
	2・3	・生活安全「安心・安全な学校づくり」を推進した。	○毎月の安全点検を通して、校内環境の維持、改善を図った。	・定期的に点検項目や箇所を確認しながら、取組を継続していく。
	1・2	・体力づくりの充実（体力づくり旬間、外遊びなど）を図った。	○冬の寒い時期を中心に、全校による年2回の体力づくり旬間を実施し、意欲的に取り組む児童の様子から、健康の増進と体力の向上につながる意欲づけとなった。また、保護者の参観による「飯山マラソン」は、児童の励みや頑張りの機会となった。	・縦割り活動を推進する上で、全校で重点的に行う取組として、時期や取組を工夫してできることを継続していく。
【地域との協働】 ○地域人材や教育資源、地域の素材を活用した「ふるさと飯山」への教育の推進	1	・地域素材を生かした「生活科」「総合的な学習の時間」の充実を図った。	○みのりファーム、飯山の人的資源の積極的な活用を目指し、全教職員で共通理解を図った。 ○夏季休業中に、大学の先生をお招きして学校運営協議会と合同で「総合的な学習の時間及び生活科」について研修を行った。また、この日の午後に、学校運営協議委員と教職員で2学期の総合的な学習の時間や生活科の指導計画を立てるなど、より地域とともにある学校づくりに努めた。	・「ふるさと飯山」を意識した教育計画を完成させる。 ・学習・環境ボランティアの活用も含め、教育課程の編成において、地域等の参加内容を工夫していく。 ・次年度も、講師をお招きし学校運営協議会と合同で研修会を行うとともに、2学期の指導計画を検討する。
	2・3	・6年生において、飯山につながるのある宮が瀬湖で「カヌー体験」を実施し、「ふるさと飯山」への思いを深めることができた。	○キャリア週間同様、多くの方々の御協力のもと、「カヌー体験」を実施することができた。 ○「カヌー体験」を通して、「ふるさと飯山」に思いをはせることができた。 ●計画段階において、児童主体の取組にすることができなかった。	・今後も、「カヌー体験」や地域を知る活動を通して、「ふるさと飯山」への思いを構築していくとともに、課題追究型の総合的な学習の時間での学びを展開していく。
	2・3	・令和15年度に向けて、「飯山小 未来へつなごうプロジェクト」を始動した。	○「やまぼうし」と「もみのき」の植樹を行うことができた。 ○「ふるさと飯山」を意識させるとともに、飯山小に対する思いを深めることができた。 ●計画段階において、児童主体の取組にすることができなかった。	・児童会を動かしながら、令和15年度まで「飯山小 未来へつなごうプロジェクト」を継続していく。 ・今後も「ふるさと飯山」を意識できるような教育課程を編成していく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

今年度の飯山小学校グランドデザインに基づいた各グループの取組とその成果と課題について、また、学校評価で寄せられた保護者の皆様や子どもたち、そして教職員の思いについて理解し、地域として協力していくことを確認した。今後とも、「飯山カブトムシ」などの事業や登下校の安全、基礎・基本の定着のための取組、飯山ボランティアなど様々な活動を充実させ、「ふるさと飯山」をキーワードとした教育活動の充実のための取組を継続していく。

また、今年度同様、来年度も「拡大学校運営協議会」を開き、全教職員と「生活科」や「総合的な学習の時間」における教育活動の充実について熟議できる時間を設けるとともに、これからも、お互いに連携を図り、恵まれた自然環境や小規模校のよさを生かした特色ある教育活動を協働し推進していく。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標の実現のため、本校の特色を生かした教育活動を推進してきた。「豊かな学力の伸長」「調和のとれた心の育成」「健やかな体と安全、地域との協働」の3分野でのグループ会議を通して、重点目標や具体的な取組を確認し、実践につなげることができた。「ふるさと飯山」を基軸とした取組において、今年度は、「カヌー体験」や「キャリア週間」、「飯山小 未来へつなごうプロジェクト」等を実施することで、地域の人材や環境を活用した協働活動を推進することができた。また、「飯山チャレンジ」をはじめとするボランティア活動が広がり、多くの機会で児童の生き生きとした様子が見られた。誰にとっても居心地のよい学校づくりの一環として「みんなの教室」を運営し、インクルーシブ教育の充実に努めている。

次年度も、様々な体験活動を通して学びをさらに充実させていくとともに、地域の人材や教育資源、素材を活用した「ふるさと飯山」の教育を前進させていきたい。その過程において、保護者や地域とともに全教職員が当事者意識をもって主体的に学校運営に参画し、よりよい学校づくりを目指していく。